

清崎貯木場を中心とした我が署の販売戦略

新城営林署 収入販売係長 ○小 林 泰 喜
生産係長 福 嶋 貢 央

はじめに

日頃、各署においても毎月の公売を通じて少しでも多くの収入をあげるべく努力されていることと考えている。

その中で、我が署における清崎貯木場を中心とした販売に対する取り組みを紹介しながら特色等を分析し、増収に向けての一考察を加えるものである。

1. 林産物収入の状況

現在、新城営林署においては、清崎貯木場を中心として人工林ヒノキを主体に販売を行っている。平成2年度の業務収入は1,012,443千円であったが、そのほとんどが林産物収入となっている。

平成元年度及び2年度の林産物収入の内訳は、表1のとおりである。

平成2年での林産物収入は、1,003,627千円のうち製品販売が968,805千円となっており全体の96%を占めている。

材積では製品が86%を占めその割合が大きいといえる。

次に、素材公売について製材業、流通業別の落札物件の材積比率をみると表2のとおりであり、製材業が約7割と顧客の主体を占めている。

2. 地点別販売数量、樹種別比率

製品販売の中で山元と清崎貯木場（最終）の販売比率は表3のとおりである。清崎貯木場での販売は材積で62%、金額で75%を占めており、販売、収入の中心となっている。

販売する材のうち最も多いのが人工林ヒノキである。平成2年度の販売量、収入額のヒノキの占める割合は表4のとおり販売量、収入額の大部分となっている。

三河地方は古くから「三河スギ」に代表されるように、スギを中心として市場形成がなされ現在に至っている。そのような中で、人工林ヒノキ材は「三河土台ヒノキ」と言われ、どちらかと言えば低い位置づけがなされてきた。

しかし、スギ・ヒノキの材価の格差が大きくなってきた現在においては、地域からの盛り上がり

りもあって、ヒノキ柱材の生産を中心に、産地銘柄化の動きが出てきている。

新城営林署としても、施業対象面積の5割を人工林ヒノキ柱材生産林として位置づけ施業を進めているところである。

3. 清崎相場といわれる要因

新城営林署で、最も多く生産しているのが3.0m材であるが、その中でも3.0m中柱材が最も多く生産される。

この3.0m中柱材の値動きを平成元年度及び2年度の愛知ブロック民間市況と清崎とを比較してみると図1のとおりである。

清崎貯木場における販売物件の方が民間の販売物件より販売単価で70百円～223百円の間で恒常的に高値で取り引きされ、平均で167百円の高値となっている。

また、平成2年度の輸送販売で熱田木材販売所へ送った3.0mの中柱の販売平均単価は、熱田が616百円となっているのに対し、清崎が643百円で、清崎の方が27百円有利に販売されている。

この底堅い市場形成が、業界から俗に「清崎相場」と言われている所以である。

高値の要因を分析してみると次のようになる。

- (1) 年間を通じ季節に左右されず恒常的に生産、販売を実施している。
- (2) 量的にまとまっているので、買方の欲する物件が常時存している。
- (3) 林班別にきめ細かな桎積を行っており目玉商品の展示を実施している。
- (4) 上記の(1)～(3)の理由により同業者間の競争が激化し、相場が民間と比べても下がらない。

以上のことにより清崎相場が形成されたといっても過言ではない。

なお、きめ細かな桎積が可能なのは、総面積33,600㎡の広い土場敷、300地番、4,500㎡の材が集積可能な貯木場を有することにある。

4. 平成3年度における清崎貯木場の業務方針及び取り組み

平成3年度清崎貯木場の業務方針を列挙すれば次のとおりである。

- (1) 新鮮材の供給に努める
桎積基準にこだわらず、締切間近の桎は小口であっても生産完了させ販売する。
- (2) きめ細かな桎積（有利販売）
高品質材、優良材は単木又は小口桎とする。
林小班（樹令）別、元玉、中玉別に樹材種の特性に応じた桎に分ける。
- (3) 顧客の拡大を図る

毎月の公売に、少量であっても目玉商品を出品し、顧客の拡大を図る。

(4) 付加価値向上を図る

防虫害対策や日割防止対策を積極的に実行する。

上記の方針を受けて新たな販売戦略をして実施している具体的な内容について紹介する。

① 人工林ヒノキ3.30m柱材及び3.0m柱材元玉、中玉生産

販売の経過は、表5のとおりである。

3.30m中柱材と3.0m中柱材の比較は、材積が増加した分だけ単価が上がったのみで、有利性が見られない傾向にある。

しかし、3.30mの元柱材と3.0m元柱材との比較では、有利な販売となっている。

このことから、3.30の中柱材生産は価格面での問題はあるものの、業界に安定的な持続供給を図る見地から3.30m元柱材を同様に今後も継続して生産販売を行う方針である。

② 目玉商品としての長尺材の販売

目玉商品として長尺材を生産し、第10回(12月)公売に出品した。材の販売結果は、表6のとおりである。

出品材は段戸国有林70林班、林令98年生、人工林仕立て木曾ヒノキ林分の間伐材であるが、高値で取り引きされている。

このような採材や販売ができたのは、現場と署との生産販売に対する職員全体の協力によるものである。

具体的には、生産担当の事業課が毎月の公売結果を基に、「素材公売ニュース」を発行し、段戸製品事業所、清崎貯木場への情報の提供を行い、それを受けて現場職員は有利採材、及びきめ細かな極積を行い新鮮材の販売を基本に署、現場が一体となって取り組んだ。

また、公売日の開催日を毎月10日に固定し、顧客に対して公売公告等を通じて公売日を周知し、それに合せた生産計画を立てるといった体制づくりもしている。

更に、公売公告に作成に当たっては、表紙に職員の協力によるマンガ(平成2年度実施)をとり入れたり、目玉商品や新たな林班からの販売物件等にはカラー写真を掲載し、工夫をこらした。

5. おわりに

材価が低迷する中で少しでも多くの収入を得るために職員が一体となって日々努力しているが、年々資材内容が悪化しており、高値で販売することは困難となってきている。

更に、平成4年度には清崎貯木場の敷地が現在の半分に縮小される等、今年度まで行ってきたきめ細かな極積みが困難となるなどの条件が低下するが、材の搬入・搬出を円滑に進める等工夫

を凝し、より一層の販売努力をしていきたいと職員一同決意しているところである。

表 1 林産物収入内訳表

年度	立木販売		製品販売		計	
	材積 (m ³)	金額 (千円)	材積 (m ³)	金額 (千円)	材積 (m ³)	金額 (千円)
元	4,982 (22%)	36,736 (3%)	17,547 (78%)	1,136,921 (97%)	22,529	1,173,657
2	2,500 (14%)	34,822 (4%)	15,668 (86%)	968,805 (96%)	18,168	1,003,627
平均	18%	4%	82%	96%		

表2 公売業者別販売材積の比率 (%)

年度	業者	製材業	流通業
	元		70
2		62	38
平均		66	34

(平成2年度)

業者	比率 (%)	備考
地元	25	新城営林署管内
県内	20	豊橋、名古屋外
県外	55	岐阜40、長野20、三重20、静岡20

表3 地点別販売内訳表

年度	山 元		清 崎		計	
	材積 (m ³)	金額 (千円)	材積 (m ³)	金額 (千円)	材積 (m ³)	金額 (千円)
元	6,342 (36%)	282,925 (25%)	11,205 (64%)	853,996 (75%)	17,547	1,136,921
2	6,200 (40%)	239,164 (25%)	9,467 (60%)	729,641 (75%)	15,667	968,805
平均	38%	25%	62%	75%		

表4 樹種別販売内訳表

(平成2年度)

樹種	材 積 (m ³)	金 額 (千円)
人工林スギ	884 (6%)	27,113 (3%)
人工林ヒノキ	13,808 (88%)	932,284 (96%)
他 N	730 (5%)	8,253 (1%)
L	246 (1%)	1,155 (0%)
計	15,668	968,805

図1 ヒノキ柱材価格の推移 (3.0m中柱)

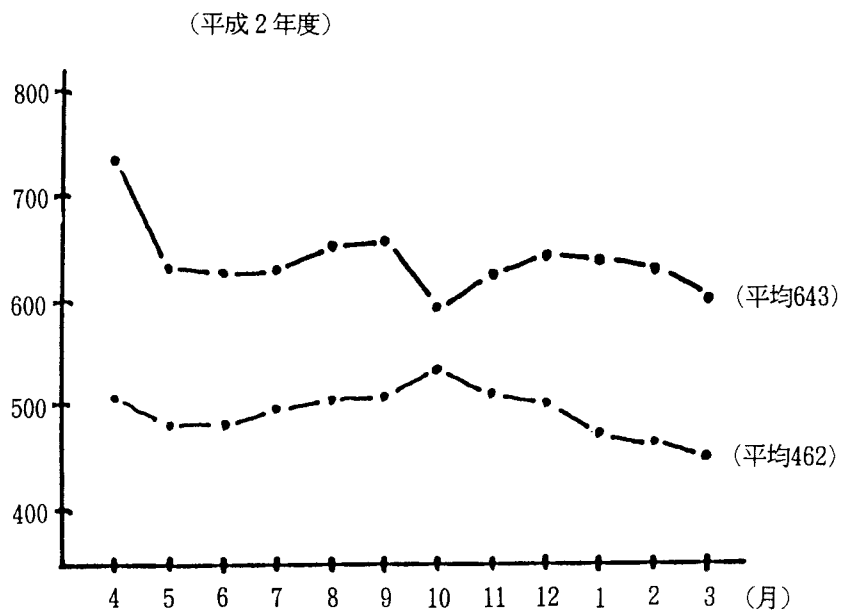
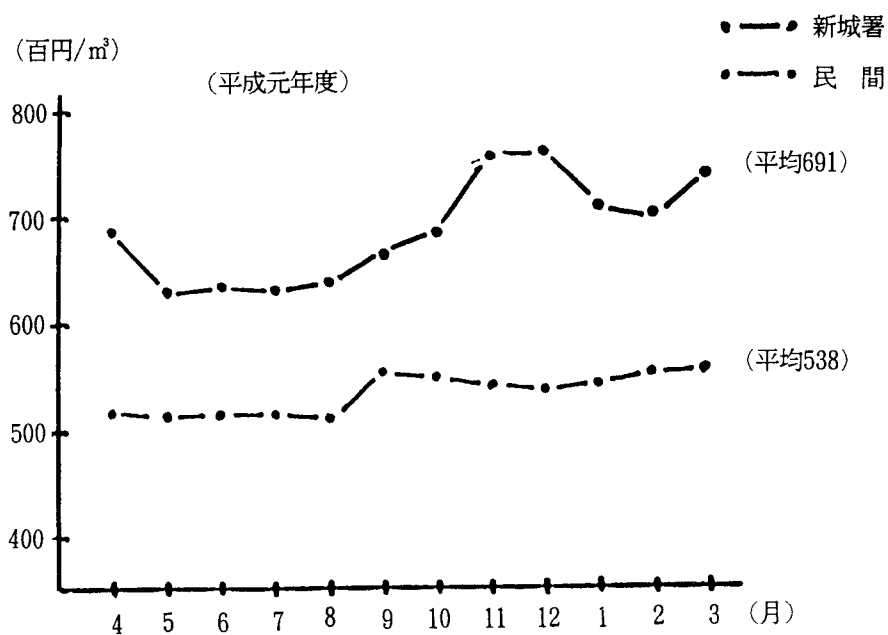
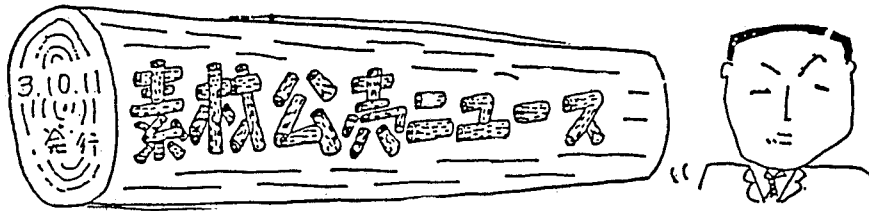


表5 ヒノキ3.3 m及び3.0 m材の販売単価 (百円/m³)

種別 公売月	3.3 中 柱	3.0 中 柱	3.3 元 柱	3.0 元 柱
第 6 回 (8 月)	640	631	—	1,472
第 7 回 (9 月)	659	635	2,021	1,451
第 8 回 (10月)	643	693	2,077	1,922
第 9 回 (11月)	—	603	—	1,297
第 10 回 (12月)	—	586	1,580	1,008

表6 長材公売結果一覧表

樹 種	長 級 (m)	径 級 (cm)	百円/m ³
ヒノキ元柱	8.0	30 ~ 32	2,884
”	8.0 ~ 8.4	26 ~ 30	2,361
”	7.0	24 ~ 30	2,235
”	6.0	24 ~ 28	2,348

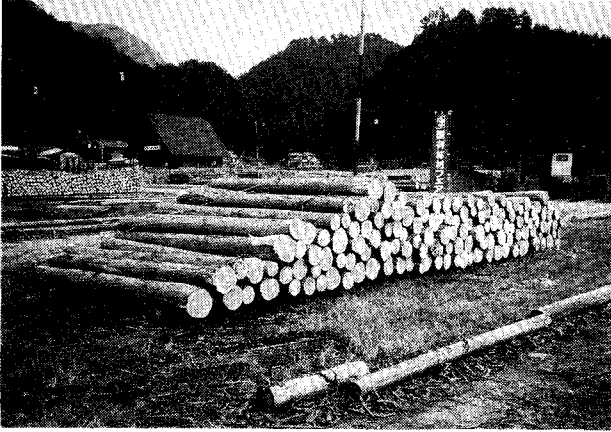


女心と秋の空、台風はもういない!! 秋晴れヨ早くこい。安全作業デ!!

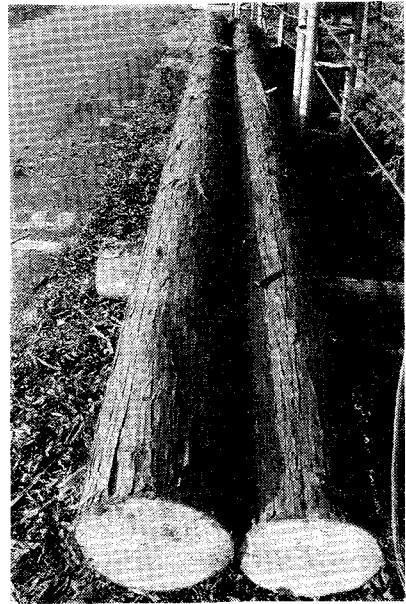
同じ 3.0m柱元玉でも、28林班は238千円。90林班は92千円弱と40%以下の状態で、材質が価格に及ぼす影響が大きいことが分かります。28林班は終わりですが70林班(98年生)を今後は期待したい。

10月素材公売 銘柄別林班別販売結果 円/m³

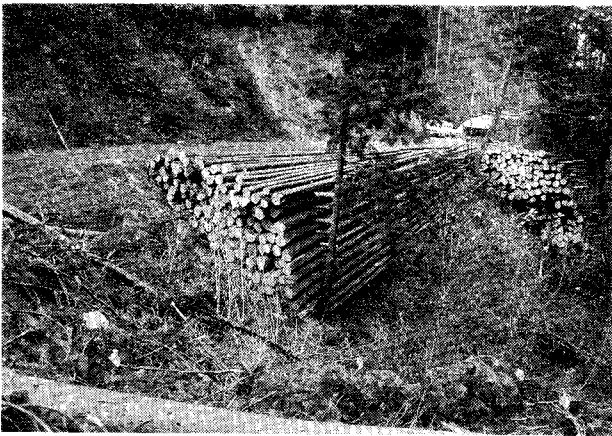
林班 銘柄	28	224	166	151	90	165	140	平均
4m 18上 元玉	128,600	104,177	113,053	131,275			108,414	126,454
~ 元中込						92,745		92,745
~ 中玉	75,009	66,521	75,449	66,108			62,868	67,624
3m 柱元玉	238,038				91,656			192,225
3.30m ~			207,700					207,700
3m 柱中玉	77,984		67,177	62,861	53,679	65,540	58,917	69,250
3.30m ~			64,329					64,329
3m 柱特延	190,831							190,831
3m 14上 一般	66,524	57,317	61,425	43,364	46,438	61,425		54,096
3m 12-13	19,731	15,410	19,717	20,124				19,484
6m 柱元外	188,218	95,494						180,391
7m-8m 元玉	158,180							158,180
5m-7m 中玉	135,920							135,920
スギ 5m 40上		52,452						52,452
~ 4m 30上		40,138						40,138
~ 3m-4m 28下		24,685						24,685



3. 30m材の桧積



長尺材の桧積



山元における全幹材の桧積